

伝統技法活用自然家具開発事業

－（第１報）－

Tradition technique use nature furniture development

- (The first report) -

伊藤 健、小松 勇、舘山 大、工藤 洋司

現在、シックハウス症候群で苦しんでいる人は少なくない。その対応策のひとつとして、建材、内装材に使用されているホルムアルデヒドの放散量を規制する基準には現在 J A S 基準がある。しかし、インテリアを構成する要素である家具自体には V O C 関係の規制が無い状況であり、基準をクリアした建築物であっても、その空間に輸入家具を配置したとたんに基準値がオーバーした事例があり、現在も化学系樹脂を一切使用していない家具メーカーは無い。

そこで本研究の目的として「安心」「安全」「心地よい」ものが強く求められている現在の社会情勢において、生活環境の視点からも接着剤等の化学系樹脂を一切使用しない。ホルムアルデヒド放散量ゼロの安心快適木製家具の開発を行うことにより、快適な生活空間と環境づくりを青森から全国発信を目指す。

実施方法は、伝統的な接合構造が多数存在しているが、それらの構造に部材同士の接合力を強める要素として、圧密スギ材の復元性質の利用可能性の試験を行った。



試 料

圧 密

養生後

